

## ウクライナの勝利に賭けるのは「自殺的」：シーモア・ ハーシュ

RT

February 18, 2023



アメリカとその同盟国は、モスクワとの合意に達する試みをすべきだった——なぜならウクライナがロシアとの戦争に勝てるという信念は「自殺的」だからだ、と、イコニックな米調査ジャーナリスト Seymour Hersh は論じた。

Consortium News のユーチューブ・インタビューで話したハーシュは、金曜日、バイデン政権を「あまりにも多くのひどい間違いをやった」と非難し、「この指導部がいかにも愚劣であったかは、信じられないほどだ」と加えた。

「その戦争に勝てると考えること、ウクライナが [ロシアとの] 戦争に勝てると考えるのは、自殺行為だった。そこにはあまりにも酷い腐敗が存在する。それはとてつもなく悪い決定だった。我々は平和を押し進めるべきだった。合意を求めるべきだった」と、かつてのピューリッツアー受賞者は言った。

米大統領ジョー・バイデンは、同盟者たちに向って、自分はその「全面的に腐敗した政府」と一緒にウクライナを支援すると宣言することによって、基本的に「ヨーロッパの NATO を吹き飛ばした」と、ハーシュは加えた。彼はまた、キエフは、ステパン・バンデーラという「第2次大戦中、狂ったようにユダヤ人を殺した、偉大な親ナチ党」を栄光化していたのだとも言った。

「また愚劣なことは、ロシア政府に向って、我々はウクライナを NATO の仲間にする気はないと、直ちに保証しなかったことだ」と、ハーシュは言い、モスクワの長い間の懸念に言及した。「NATO はどちらにしても、ウクライナを腐敗のゆえに望まなかったのだ。」

ハーシュは最近、爆弾的な報告を公表して、アメリカが昨年、「ノルド・ストリーム」パイプラインを爆破したことを非難した。彼はある情報から確かなソースを引用し、爆発物が去る 2022 年 6 月、NATO の演習と偽って、米海軍のダイバーたちによって、バルト海の海底に敷設されたと説明した。それらは 9 月末に爆発させられ、ドイツを通過してロシアのガスを、ヨーロッパに送るように建造されたパイプライン（複数）を、機能不能にした。

米国務長官アントニー・ブリンケン、政策担当国務次官ビクトリア・ヌーランド、それに国家安全保障アドバイザー、ジェイク・サリヴァンは、このジャーナリストによれば、すべて高度のタカ派だという。このトリオが「バイデンを非常に強力に押して」この破壊を実行させた。なぜなら「彼らはロシア大統領プーチンに対する、長い間の、信じられないほどの憎しみを持っていた。それはほとんど個人的なものだと私は思う」と、ハーシュは主張した。

米国家安全保障委員会報道官アドリエヌ・ワトソンは、ハーシュの爆弾報告を「全くのウソで完全なフィクションだ」とこき下ろした。このジャーナリストは、いかにしてこのパイプラインが爆破されたかについて、より多くの事実を約束している。

## ノルド・ストリーム爆破のさらなる怖れ： シーモア・ハーシュ



ジャーナリスト、シーモア・ハーシュは、アメリカの「ノルド・ストリーム」パイプライン爆破へのより犯罪的な関りについて、情報を明らかにすると約束した。ジョー・バイデン大統領は、このラインを破壊することを命じ、ドイツがロシアから安いガスを買いつけることが、できなくなるようにしたのだという。

水曜日、サブスタック・ページへの投稿でハーシュは、主流メディアを攻撃して、NY タイムズやワシントン・ポストを特定し、このパイプライン物語について「たった一言も」載せることを拒否し、ロシアと中国が国際的な調査を求めているのに、これを無視しているという責めた。<https://substack.com/inbox/post/102867718>

両紙とも、ベトナムでのアメリカの戦争犯罪については、彼の暴露記事を公表したが、現在、彼らは「国家安全保障や戦争と平和の問題」には、無関心のように言った。

「ノルド・ストリーム」1も2も、ロシアとドイツを、バルト海の海底でつなぐものだったが、先の9月の一連の海底爆発によって損傷を受けた。ピューリッツァー賞受賞ジャーナリストのハーシュは、先週、報告記事を公表し、いかにバイデン政府とCIAがこの作戦を計画し攻撃したかを、詳細に説明した。ホワイトハウスはこの主張を、「全くのウソで完全なフィクション」だとして一蹴した。

この記事は、モスクワが繰り返し主張するように、アメリカはロシアとドイツの間の親交関係を破壊するために、この攻撃を実行し、一方でベルリンを、より高価なアメリカの液化天然ガスに頼らせるようにしたのだ、と言っている。<https://www.rt.com/news/571372-lavrov-nord-stream-sabotage/>

ドイツは、ロシア軍がウクライナに侵攻する2日前に、ノルド・ストリーム2を確認することを停止しており、EUの制裁は、その修復を致命的に妨げることによって、夏後期以来、ノルド・ストリーム1によるガスの流通を減圧させている。しかしハーシュは、ドイツの新聞Berliner Zeitungに対し、火曜日、バイデン政府は、ベルリンがこれらの制裁をやめるのではないか、冬季にかけて気温が下がるとともに、ガスの流通を再開させるのではないか、と恐れていると話した。

「米国大統領は、ドイツにウクライナの支援をやめさせるよりも、ドイツが凍えてくれたほうがありがたいようだ」と彼は言った。

「ジョー・バイデンの決定には、まだいろいろ考えがあって、ドイツ政府には、この冬季に安いガスが欠乏することについて、我慢してもらいたいようだ」と、ハーシュは水曜日書いた。「これはまだ終わっていない。我々はまだファーストベースにいる…」

[訳者 Greatchain 注]

こんなことがありながら、それでも西側世界が一致団結して——「団結」は先日の「一般教書」のバイデンの言葉——ロシアのプーチンを倒そうと考えるなど、馬鹿げているではないかとハーシュは、バイデンを愚か者の代表として批判している。その西側には、わが国の現政府も入っている。ハーシュの微妙な表現から、ショルツ独首相の戦車供与に対する逡巡をはじめ、いろんなことが分かってくる。

ロシアを力で倒すことが間違いであるだけではない。アメリカとその同盟者が、おのれの徳のなさによって自ら滅びの道を歩んでいる、と考えるべきである。ハーシュの強調する（ウクライナの）**腐敗**という言葉に注目せよ。

とは言え、ハーシュが言う通り、これで終わったわけではない。第3次大戦はこれから本番であろう。あのオハイオ州で起きた、列車の転覆から始まった、恐ろしい毒ガスの大拡散は、人間破壊へのさらなる一歩と考えてよいだろう。